

本書の目的

本書は、AFP・2級FP技能士試験に最も容易に、かつ、確実に合格するために構成されています。

このテキストをマスターすれば、最も合理的かつ最短に合格圏に入ることができます。

本書の特色・使い方

① 文章は簡潔に、かつ、わかりやすくしました。

少ない時間で全範囲を勉強するには、楽に読める必要があります。そのため、本書は、なるべく文章を簡潔に、かつ、わかりやすくしました。

② 図表を多く盛り込みました。

文字ばかりのテキストではなかなか理解が進みません。テキストの内容に合わせた形で、図表があると理解が進むものです。そこで、本書では図表を多く盛り込みました。

③ 試験に出題されるか、否かの重要度を各事項のはじめに明示しました。

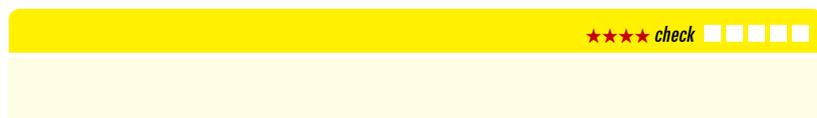
試験にあまり出ないところを一生懸命やっても無意味です。そこで、どこに力を入れて学習すべきかを各事項のはじめに、



の3段階で示しました。

④ テキスト内の内容にも重要度を示し、確認のためのチェックボックスを設けました。

■黄色枠で4つ星マークが記してある箇所は、最重要事項です。テキストの本文中や事項の最後にポイントとしてまとめてある場合があります。



■テキストの本文中の必須学習項目は、黄色以外の色枠で囲み、1～3つの星マークで重要度を示しています。

星マーク1～3で重要度を表記 チェックボックス



色枠は学習意欲向上の一助として、カラフルな色使いにしています。



■必須学習項目に関する参考項目については、同色で下記のように表示しています。



労働者を使用する事業は、その種類・規模に関係なく労働基準法の適用を受けます。

労働基準法別表第1

労働基準法は事業の種類に関係なく適用されますが、労働時間など一部の規定については、事業の種類によって特例が設けられています。そこで労働基準法は、「別表第1」において一定の業種の区分を列挙したうえで、特例の箇所それを引用するという形をとっています。

この場合、「原則」に関する参考項目です。

■テキスト右ページ上部には、学習日の記録欄を設けました。学習進捗状況などの確認に役立ててください。



■テキストの各ページの下に「メモ欄」を設けました。講義を聞きながら、またテキストを読みながら、必要なことはどんどんメモ欄に書き込み、自分だけのオリジナルテキストに仕上げていきましょう。

本書の利用により、一人でも多くの方がAFP・2級FP技能士試験に合格されることを、心より切望します。

ライフプランの意義



ライフデザイン → (各人の価値観に基づいた)「**個人の生き方**」

ライフプラン → 「**人生設計**」・「**生涯生活設計**」

2つの関係

★ check ■■■■

ライフプランは、資金計画だけでなく、家族に関するプランやキャリアプラン、健康に関するプランなど具体的な「暮らし方」のプランを意味しますが、ライフデザインは、各人の価値観に基づいた「生き方」を意味します。そのため、ライフデザインには、その人の夢や人生観がそのまま映し出されます。いわば、ライフデザインはライフプランの前提となり方向づけるものといえます。

ライフプランの必要性

★ check ■■■■

- ① 昨今の経済・社会環境は急激に変化しています。
 - 終身雇用制・年功序列型賃金の崩壊
 - 公的年金の支給開始年齢の引上げ
 - 少子高齢化
- ② もはや、国や企業が守ってくれるとは限らない、自己責任・自助努力が求められる時代になってきています。
- ③ 自立して生きていくためには、家計の現状を把握し、目標・計画を立て準備をしなければなりません(=ファイナンシャル・プランニング)。
- ④ そのために、自分自身のライフプランを描く必要があります。

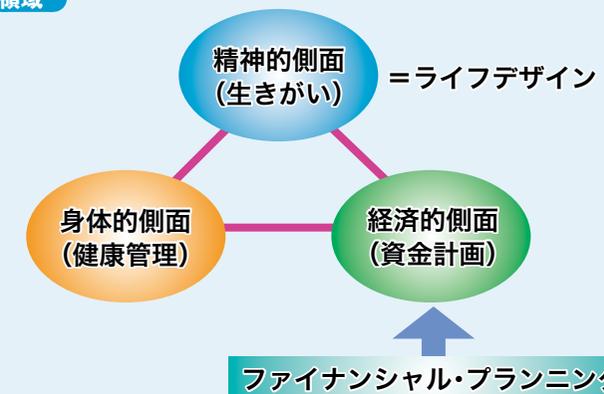


プランニングにおけるFP業務

★★★ check ■■■■

- ① FPは、顧客のプランニングに必要な法律、金融商品や税金などに関する知識を深め、情報を収集し、必要に応じて知識を最新の情報に更新する必要があるため、FPとして常に自己研さんに努める必要があります。
- ② FP業務においては、
 - **顧客の利益優先**
 - **守秘義務の遵守**
 - **アカウントビリティ** (顧客に対する説明義務)
 - **インフォームド・コンセント** (顧客の理解と納得)
 が求められます。
- ③ 顧客の同意を前提に、弁護士や税理士などの専門家の協力を得ながら、目標達成のための計画を立案することが必要です。
- ④ 職業上の倫理観が必要であり、顧客の満足度を高めるためであっても、コンプライアンス(法令遵守)に少しでも抵触してはいけません(→テキスト01「FP総論」参照)。

ライフプランの3領域



ファイナンシャル・プランニングは、ライフプランの経済的側面をサポートします。



ライフプランの目的とライフスタイル



ライフプランの目的

★ check

- ① ライフデザインの具体的実現に役立ちます。
- ② 時系列で表わすことで目標の数値化・明確化が図られます。

年代別ライフスタイル

★ check

- 20代**
 - キャリアのスタート
 - 結婚資金準備
 - 貯蓄運用開始 (=ファイナンシャル・プランのスタート時期)
- 30代**
 - キャリアアップを図る
 - 住宅購入の自己資金準備
 - 出産・教育資金の準備
 - 金融資産運用
- 40代**
 - 住宅ローンの返済
 - 教育資金の確保
 - リスク管理
 - 老後資金のための準備
 - 親の介護問題など
- 50代**
 - 退職後の生活設計 (=リタイアメントプラン)
 - 老後資金確保のための最終段階
- 60代~**
 - 仕事を続けるかどうかの選択
 - 退職金の運用
 - 寝たきりになったときの備え
 - 相続設計

- ① 現在のライフスタイルは多様化しています。
 - 婚姻率の低下・離婚率の増大
 - 晩婚化
 - シングル・ディンクスの増加
 - 両親との同居期間の長期化
- ② ファイナンシャル・プランの作成では、顧客それぞれのライフスタイルを重視してプランニングすることが大切です。

ディンクス (DINKS)

夫婦共働きで子どもをもたない家庭を意味します (Double Income No Kidsの略)。

三大資金

★★ check

- ① 教育資金
- ② 住宅取得資金
- ③ 老後資金



notes

notes